

令和5年度 第2回 入野小学校学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和5年10月5日（木） 13:57～15:38
- 2 開催場所 入野小学校 会議室
- 3 出席委員 鈴木 幸子、山田 渉、大塚 哲雄、青木 有美、中村 勝彦  
田中 大輔、原田 実穂
- 4 欠席委員 岩田 邦泰、古橋 明美
- 5 オブザーバー 徳増 宏之（入野協働センター所長）
- 6 学校 伊藤 真理（校長）、山下 淳（教頭）、  
野中 律宏（教務主任）、辻村 久江（CSディレクター）
- 7 教育委員会 牧野 知子（教育総務課）
- 8 傍聴者 なし
- 9 会議録作成者 CSディレクター 辻村 久江

10 議長の選出

司会から議長の選出について委員に意見を求めたところ、会長から中村委員を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

11 協議事項

(1) 外国人の学習支援について

12 会議記録

司会の教頭から、委員総数9人のうち7人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1) 外国人の学習支援について

議長の指示により、校長から、別紙資料に基づき外国人児童の家庭学習の現状報告と、今後の学習支援についての具体案の説明があった。

今回提案した具体案について、賛同いただけるか、補足や修正が必要なところはないか、もし賛同いただける場合、ボランティアの募集をどんな形ですすめていくかについて熟議いただきたい旨の話があった。

これに対し、委員からは以下の発言があった。

- ・外国人児童は普段どのように授業を受けているのか。サポートは入っているのか。（中村委員）

→通常級での授業ではサポートは入っていない。週の中で計画的に国際教室での取り出し授業をしており、そこでは外国人担当の職員が個別またはごく少数での指導をしている。(校長)

・色々な国の児童がいるが、母国語はみんな違うのか。南米系の母国語の児童は支援があると思うが、それ以外の母国語の保護者とはどのようにコミュニケーションをとっているのか。(山田委員、原田委員)

→手紙などはやさしい日本語に書き換えて渡している。ポケトークを利用してコミュニケーションをとることもある。(校長)

ここで会長より、先に学習支援について賛同するかを決めた方がよいのではとの発言があり、司会が採決をとったところ、全員一致で賛同した。次に司会より支援の仕方やボランティアの募集方法について意見を求めたところ、以下のような発言があった。

・ボランティアをしてくださる方には事前に対象となる子どもたちの日本語の状況や接し方等について、外国人担当の先生から研修をしてもらった方がよいのではないか。また、学習については昔とやり方が変わっているものもあり、ボランティアをする方も不安があると思うので、スタート当初は学習の指導ができる方に一緒に入ってもらえたら安心できるのではないか。(青木委員、中村委員、鈴木委員)

・はじめから学習をさせるとなると、負担感があるのではないか。まずは日本語でコミュニケーションをとることから始めていき、そのやりとりの中から、自然に宿題を一緒にやるような感じにもっていったり、会話する中で何に困っているかがわかったりするとよいと思う。(中村委員、田中委員、山田委員、大塚委員)

・先日、入野協働センターでおこなった外国人支援のボランティア講座の中で、外国人の子が、「一番困っていることは、お互い気楽にふれあうことができないこと」という話をしていた。(大塚委員)

・近隣の小学校でおこなった外国人児童へのアンケートでは、以下のような意見があった。(青木委員)

☆地域の人たちとふれ合いたい(外国人児童の保護者からも同様の意見があった)

☆声をかけてほしい(挨拶くらいでも)

☆話をきいてほしい(きいてもらうことでそれが支えになる)

☆日本語で話しかけてほしい

・せっかく日本にいたので、遊びや普段の会話を通じて日本の慣習が自然に伝わりとよい。学習の前の段階、日本語で楽しく会話ができ、人間関係が作れるように低学年のうちからやっていたらいいと思う。ちなみに学校としては、いつ頃から始めたいと考えているのか。(鈴木委員)

→できれば試行的に3学期から始めたいが、それが難しいようなら来年度からと考えている。(校長)

・次回の会議が2月ということで、そこで内容を決定しても来年度からのスタートに間に合わないのではないか。次回までの間に会議等ができれば、今年度中に1回でも子どもたちとボランティアさんが関係を作る機会が設けられるのではないか。(鈴木委員)

→あらためて会議をもてたらよいが、例えばさくら連絡網等を通じて、作成した文書を見ていただき、ご意見を伺うという形をとることもできる。(校長)

・この活動はどこが主体となってやっていくのか。(田中委員)

→主体は学校運営協議会で、実務的なところは学校が担当し、各委員はそれぞれの立場で周知するというところでよいのではないか。(大塚委員、校長)

・地域の方にボランティアの募集をかけるには、年末くらいには協働センターに文書を持ち込む必要がある。できるだけ早めにボランティアの募集要項を作成し、さくら連絡網等を使って各委員に確認するようにしてほしい。(山田委員、中村委員)

### 13 連絡事項

#### ◆教育総務課より

学校運営協議会自己評価表及び熟議チェックシートの記入についての説明があった。次回の会議でこの評価表について熟議する。

◆司会から、次回会議は、令和6年2月22日(木)14:00から会議室で開催する旨の報告があった。